

## 水ストレス（渇水）の評価

水ストレス（渇水）※1については世界資源研究所（WRI）のAqueduct（アキダクト）を用いて国内外の生産拠点の評価を行いました。2024年、2030年においては欧州、東南アジアの拠点で水ストレス下にある地域にあることがわかりました。2050年にはさらに南米の拠点においても水ストレスのリスクが高くなると想定されています。今後は継続的に使用水の削減に取り組んでいきます。

### Aqueductによる渇水リスク評価結果 （生産拠点数）

渇水リスク	水ストレス	2024年	2030年	2050年
大	40%超	2	2	3
中	20~40%	14	15	14
小	20%未満	7	6	6

## 水質汚濁の防止

生産活動にともなう工場排水は処理設備を通じて適正に処理されて工場外に排出しています。排水に含まれる生物化学的酸素要求量（BOD）、化学的酸素要求量（COD）、浮遊物質排出量※2などをモニタリングしており、継続的な設備更新と併せて、水質管理システムの改善と規制値を遵守した運転を行っています。また、水質に関する法令違反は発生していません。

### 排水モニタリング項目の推移 （トン/年）

分類	2020年	2021年	2022年	2023年	
日油	BOD	34	50	37	33
	COD	60	67	44	52
	浮遊物質	33	31	22	36
国内グループ	BOD	38	52	39	36
	COD	60	68	44	52
	浮遊物質	40	36	25	42
日油グループ	BOD	104	93	67	74
	COD	219	154	148	171
	浮遊物質	56	46	44	58
法令違反数（件）	0	0	0	0	

※1 水ストレスは利用可能で再生可能な地表水および地下水供給に対する総取水量の比率を測定しています。取水には、家庭用、工業用、灌漑用、家畜の消費的および非消費的使用が含まれます。利用可能な再生可能水供給には、上流の消費水利用者と大きなダムが下流の水の利用可能性に与える影響が含まれます。

※2 水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質のことで、水質指標の一つ。